

<日時> 平成25年6月8日(土)～9(日)

<会場> 室蘭市体育館 ※第63回 北海道大学バスケットボール春季選手権大会

<講師> 日本バスケットボール協会 審判委員会 藤 垣 庸 二 氏 (国際審判員)
北海道バスケットボール協会指導育成グループメンバー

<参加審判員> 順不同

富士 将史 (稚内)、松尾 諭 (旭川)、治田 理知 (釧路)、佐藤 淳 (室蘭)
佐藤 陽子 (函館)、近藤 巧 (札幌)、岩崎 晋也 (札幌)、加藤 琢也 (札幌)
苫 美和 (札幌)、櫻庭 康祐 (小樽) 以上25年度強化指名審判員10名

<スケジュール及び概略>

◇6/8(土)

8:40～ 開講式
8:45～ レクチャー①…藤垣講師より
10:30～ 実技講習…北海道大学春季選手権大会のゲームを使用
16:30～ フィットネステスト (上級審判員含む)
17:15 レクチャー②…ビデオ研修
→当日のゲームを撮影したビデオ映像
を使用し、藤垣講師解説による研修

◇6/9(日)

8:45 会場集合
9:00～ ルールテスト
10:00～ 実技講習…北海道大学春季選手権大会
のゲームを使用
16:15～ 閉講式、解散



<参加者のレポートより>

◇レクチャー①について

・藤垣氏に、サッカープロレフェリー西村氏の話を紹介していただいた。次から次へと起こる問題へ即座に対応することがレフェリーとして必要な資質であり、精神面の強化も必要であると感じた。

・レクチャー①の中で講師よりお話しいただいた内容で今の自分自身に足りないもの、より必要なものがありました。それは以下の2点

1. レフリーに求められる能力の一つ → 問題を即座に対処する能力
2. プレッシャーとは → 準備不足の自分が作り出している

普段それほど意識することなく行っているが実際にゲームを終えてフィードバックしてみるとどうだったのか?もっとより良い対応ができたのではないかと、その時に何を思っただろうかとコートに立っていたのか短時間

のレクチャーの中で考えさせられました。普段どれだけ意識をして行っているか、その積み重ねで意識しなくても備わっているのが上級審判員で上級審判員に求められることの絶対要素なのでは。



・パワーポイントの資料は、サッカー早期育成プロジェクト国際審判研修会において、講師西村氏が話した内容から始まる。レフェリーが求められる能力のひとつとして、問題に即座に対処する能力が挙げられるが、予想をしているものは比較的楽であるが、大切なのは「予想していないものにどれだけ対処できるかどうか」である。試合に挑む中、プレッシャーは誰が生み出しているのか、外的要因・内的要因が考えられるが、それは全て自分が作り出しているものではないのか。それは「自分の準備不足」が原因である。また、外的要因に関しては、考えてもどうしようもないことは、いくら考えても仕方ない。必要な心理的能力として、状況を把握すること、相手の感情を読み取ることが重要である。また、判定に納得してもらうためには、その材料や表現力が不可欠であり、それは、角度、距離、位置等が挙げられる。例えば、off foulかdef foulかきわどい時、判定は自分を納得させるものではなく、みんなを納得させるものでありたい。これは理想論かもしれないが、追求する必要がある。「三方よし」の精神、選手(コーチ、ベンチ含む)、観客、自分自身が納得できる判定を心がけたい。信頼による合意が生まれることが理想であり、信頼されるために最大限の努力をすることが最も重要である。チャレンジとミスという話では、誰にでもあるミスを最小限に抑えなければならない。特に、試合終了の5分はミスをしない。ミスを克服するためには「分析」「受容」「再発防止」の意識を持ち、ミスを恐れずチャレンジすることが大切である。自分の持つパフォーマンスを発揮するために、何をすべきなのか考えてほしい。

「A」というワッペンをつけるということはどういうことか。スキルとして何を兼ね揃えなければならないのか。何を元に審査をしているのか(されているのか)を把握する必要がある。また、off the coatの振る舞いや、その義務と責任を感じ、個性と人間性を磨いてほしい。最後に、自分を知り、変化できる柔軟性を持つこと。色々なことを色々な人に言われると思うが、しっかり聞く耳を持ち、取捨選択をすることも能力のひとつ。

・藤垣氏が、サッカーのプロフェッショナルレフェリー西村雄一氏のお話を聞いた内容を、Power Pointにまとめたものを見ながら話をして頂いた。サッカーとバスケットボールのレフェリーにおいて、身につけなければならないことには重なる部分が多く、特に今回の講習会のテーマでもあった、[判定の裏付けとなる材料=角度・距離・位置取り]の重要性についてお話されていた。実技後の講評でも藤垣氏はこの[位置取り]についての指導が多く自分自身1つ1つのプレイに対してよりよい位置を取れるようもっと研鑽しなければならないと感じた。

また、何事も[準備する(備える)]ことの重要性も説かれていた。レフェリーに求められる能力として「次から次へと起こる問題へ即座に対処する能力」と挙げており、この能力を身につけるために次々に起こる問題に[準備する(備える)]ことができなければならぬのだろうと思った。更に、プレッシャーは「準備不足」の「自分」が作り出しているという話もされており、1つのゲーム、大会に向けて自分を



信じることができる(自信を持てる)[準備(備え)]が大事であり、それができていればこそゲームの中でプレッシャーを感じることがなくいつもの自分のパフォーマンスを発揮することができるのだと思った。

・レクチャーにて とても頭に残っていることの一つとして…レフリーに求められる能力の一つ⇒次から次へと起こる問題へ即座に対処する能力⇒予測しておくこと。というお話があり 私には足りない所だと思いました。

◇実技講習（1日目）について

・エリア3から4の境目で面の変わる時と、エリア3のアウトオブバウンズでトレイルが判定した方がよい場面があったので、協力と分担をするべきだった。速攻が出てオートマチックにアンスポーツマンライクファウルを宣するべきケースがあった。遅らせて吹いて2ショットにしたが、ルールブック通りに判定するべきである。

・お互いにゲーム入りから悪い手の使い方は整理できてプレイヤーに伝えることができたと思います。しかしハイポスト付近の1対1と3～4番エリア付近でのスクリーンプレイが多くなる中で相手と同じ所を見てしまっていることがありゲーム中に話しはしていたもののその部分のコンビネーションが上手く行くことができません終わってしまいました。

講師からの講評ではプレイに合わせての機械的な動きになっているため何を見ているのか何のために動くのかをもう一度考えてほしいと。確かにコートに立っている時はあまり感じはいたなく振り返ってみるといつの間にかその様な動き方になっていたこと、そうなっていることにゲーム中に気付かなかったことがとても悔しい。いずれもメンタルも含め準備不足ということに繋がっていた。「当たり前のことを当たり前にする」大切さを改めて痛感させられました。

次回の講習会までに少しでも克服できているように日々の活動に取り組んでいきたいと思います。

・講師指摘のとおりトレイルでの位置取りや次に起こることへの対応が自己反省としても残った。今見えていることより、次に起こることをや自分しか判定できないスペースへの位置取りや視野の当て方をもっと研究し準備しておかなければならない。

・プレイの情報量の少なさから、知らない笛につながっていると分析する。なぜ情報量が少ないのか？後半につれプレイへの意識が弱くなっている。また、ゲームの流れを考えていない気がする。

→ 残り時間5分からの意識向上をルーティーンとして構築していきたい。

・1ゲームを通して、大事な時間帯、大事な場面の理解不足
→ コーチ、プレイヤーの意図や目的の理解
以上を課題に活動していきたい。



・日頃の地区の取組が大切だと思い、どんな試合でも常に緊張感を持ち、誠実に取り組んできたが、それでも「通常通り」できず、試合後は自分の甘さに嫌気がさした。何が自分自身をそうさせたのか、今回の講習会に向けた気持ちを考えると、ベクトルが「自分自身」にしか向いていなかったように思う。審判を何のために始めたのか、主体はどうあるべきなのか、言葉通り「初心に戻る」必要があると強く感じる。また、講師の藤垣氏や、後に阿部氏、北本氏からは、下記の内容をアドバイスいただいた。以前も言われたことをクリアして来たつもりだったが、メンタル面に併せ、やってきた「つもり」だったことに気づき、もっとオーバーに、堅実に表現することを心がけたい。

・学生のスピードと高さにあジャストすることができるよう、今のスペースを後追いにしないよう、常に次のスペースを見ることができるようになること、またリードではプレイヤーと近くなりすぎないように開く・下がること（視野を上下に広く取るため）、トレイルではベネトレイトすること（エリア5でのショットやりバウンドに対応するため）を目標にゲームに入った。

[リードで支柱の中心にいることが多く、あいまいな位置取りとなってしまっている。相手レフェリーも協力しづらくなってしまふ。トレイルにおいてはボール中心になってしまい、次のスペースを見られる位置取りとなっていない。Defが近接していたので、ボール中心となってしまっていた。近接している場合でも次のスペースを見ることが出来る位置取りを取れるようにしなければならない。両チームとも1on1が中心の攻撃だったので、大きな問題とはなっていないが、OFFボールで色々な事が起きた

場合対応できない。]という講評を頂いた。自分で意識した事と実際に吹いて講評して頂いた結果が、あまりにも逆となってしまっていると感じた。より強く意識することと、いくら考え方を変えたとしても行動を変えていかなければ意味がないと痛感したゲームであった。

・点数の競り合うことが予想されるゲームであり、両チームともスピードがあるチームであることから、より良い位置取りで判定すること、そして激しいラリーを適切に判定するために、両審判の距離感について打ち合わせを行ってゲームに臨んだ。一試合を通して課題に残るのは、プレーのスペースを捉え角度をつけてみることに感じた。



◇レクチャー②について

・レクチャー②ではビデオ研修が行われました。普段、自分でも取り入れていることではありますが大勢の方々と見て検証することもいろいろなディスカッションする場にもなり良い機会となりました。やはりビデオは嘘をつかないですね！

・初日に担当したゲームをレクチャー②にてビデオ研修を行った際に位置取りの甘さが露呈した。フロアバランスとボールの状態を敏感に感じコート上で表現することが大切であると感じた。



◇実技講習（2日目）について

・倒れるプレーが結構あった。確かに倒れなくてよいプレーだった。その中で青の7番には倒れないようにと何度か伝えていたが、オフィシャルワーニングとして、時間が止まっているときに両チーム、両ベンチにも伝える必要があっただろう。そして、次からはテクニカルファウルもあることを注意するべきである。アドバンテージ・ディスアドバンテージの話題になってしまう。ガードがベネトレイトしてきてバスをさばいたところでファウルを鳴らし、シュートまで行けたケースなど2回プレーを切ってしまった。チーム戦略、ベンチや選手の心情を感じ取らなければならない。この考えはレベルが上がれば上がるほど感じ取らなければならないことである。

・悪い手の使いに対する判定があまり伝わらなかったようで、終始やめることもなく、気をつけているように感じられなかった。笛のタイミングや表現、伝え方を研究していく。課題のトレイルは前日よりかなり意識し、横のスペースを捉えることが増えた気はするが、まだまだプレイを感じることに、動きの工夫と研究が必要だ。

・前日と同じく、後半につれて不必要な笛が目立つ。体力的なものなのか？精神的なものなのか？見方なのか？理解力？いずれにしても1ゲームを通しての自分のウィークポイントを整理してみたい。

・現在の課題は「トラベリング」の判定である。トラベリングの基準に関しても、もう少し明確な分析が必要だと感じている。当面は、この「トラベリング」を課題に行っていきたい。

・先日の講評でいただいたアドバイスを忠実に表現しようとするのがあまり、結局いいpositionでもなく、確認もできず、結果判定もできない状況に陥った。数回positionが良かった瞬間があり、foulではない判定をしたことが残っているが、ビデオで見るともっと良いpositionがあることに気づいた。おそらくそのpositionから判定するとfoulの判定をしていたのかもしれない。Coat上に立つと、それがbest positionだ



と思っただけでも実はもっといいpositionがあり、試合中にはビデオの視野を持つことがreadの動きのヒントになるのかもしれないと思う。また、今回は相手審判との連携や協力の重要性を痛感した。それは試合運営に不可欠であり、自分を楽にすることにもつながるとの話をいただいたが、私は現在その実感が足りず、普段いかに自分勝手に吹いているのか、と失望している。

- 前日の反省を生かし、トレイルでは次のスペースを見ることが出来る位置を取ること、リードでは支柱の真ん中にならないようにし、右に行くべき時、行かないで左に残る時をはっきりとさ

せるということ意識してゲームに入った。

[トレイルで、リードが右側に来た時の逆サイドのプレイをおさえることができていない。リードではエリア1番にボールがあるときにリングに寄りすぎてしまっているため、エリア3・4番のプレイ(カットイングやスクリーン)に対応できていない。プレイヤーラインを意識した位置取りをしなければならない。エリア5番にてポストアップやリバウンドにおける身体接触がある場合でも見えていない事がある。エリア4番からのベースライン沿いのドライブに対して、プレイと同様に動いているためブラインドになっている。ミスした後にゲームの中で修正する力がない。ゲームの終盤5分・3分という時間態で判定しきれないものがある。]という講評を頂いた。

このゲームでは特にリードの位置取りにおいて、プレイに近づくために動くのではなく、スペースを見るために動かなければならないということ、視野を絞って1つのプレイを見る時間を短くして広い視野を確保する(エリア1番にボールがあり、エリア2番からゴールカットがある。支柱の右側に行ってカットイングのプレイを見た直後にエリア4番からエリア6番側のローポストにポストアップするプレイがあり、リング回りでパンブがあったのを捉えられなかったため)こと。何より、ゲームの中で自分のミスを修正する力を養うこと。そのためには1つのミスを深く考える必要がある。そして、ゲームの終盤において、集中するということはどういう事なのかをもっと具体的に考える必要があると感じた。ボールをインターセプトするために1線・2線のプレッシャーが強まるので、ボールだけのビジョンにならず、よりOFFボールの視野を確保すること、リバウンドの争いも激しくなるので、ボールの落ちる場所をいち早く予測し、スペースを確実に捉えること。

- ルール通りにプレーを捉え、より良い判定をするためにプレーの角度によって、見る位置を細かく工夫する力が不足していると感じた。また、コーチや選手との距離感についてもより自分に基準をもって接する必要性を感じた。いいゲームを作り上げるためにやらなければならないことがたくさん見つかったゲームであった。



◇まとめ

- 今回、講習会講師として日本協会・藤垣氏、北海道協会指導育成グループの皆様には中身の濃い講習内容を作っていただきありがとうございました。また少しでも変化した姿を見せられるように頑張ります!!

- トラベリングや悪い手の使いについては、取りこぼしなく判定ができるようになってきた。足元とボールの離れを確認できる位置、手を使いそうなスペースやプレイを感じられるようになってきたのでさらに研究したい。トレイルからの判定について課題がある。横のスペースになるプレイの捉えがうまくできていない。次にどうなるかをもう少し考え、どこに位置どりをし、判定に繋がれるか研究しトライしていきたい。今回の講習会開催にあたり、お忙しい中お越し頂いた講師の藤垣様、中村審査委員長、北本審判長、阿部指導部長をはじめ指導育成グループの皆様、講習会準備から細部にわたる指導までありがとうございました。

- 今回の講習会では「北海道を代表する選ばれた審判なんですから」という言葉を色々な場面で聞いた。周りでそういう話をしているのを聞くと、その責任の重さをより感じることが出来る。その中で、日頃の取組はどうだったのか、自分の意識はどうだったのかと考えると、技術的なことも含め、やっている「つもり」であったことが今回の結果に直結している。

自分自身、何が許せないかという、普段通りにできなかった精神面の甘さである。常日頃、どんな試合でもどんな場面でも、ブレないで最後まで集中して判定し続けることに挑戦し、地区大会では、やっとその成果が発揮できている実感が持てたところであるが、それはきっと大きな勘違いだと気づいた。また、自分自身にベクトルが向いていることで、いつの間にか「自己満足」的な部分があったかもしれない。日頃の努力は嘘をつかないだろうし、自分が持つ意識の変容が今回の結果につながっていることを考えると、全ては自分の甘さが引き起こしたものだと思う。

この気持ち悪さを一掃し、さらに向上するために、自分自身の取組を見直し、妥協することなくもっと貪欲に挑戦したい。

- [最終日、主審の割当をもらう]という目標を持って臨んだ講習会・大会であった。しかし、残念ながら目標を達成することはできなかった。A級になるためには、より安定感や正確性を高めなければならないと思った。そのためには、今回の講習会のテーマでもあった、[位置取り]をもっと追求して行かなければならない。

そして、ゲームを終えた自分の感想(ゲーム中に感じたこと)と、講評を頂いた方々の感じ方のズレを感じた。自分ではできていたであろうことも、実際にはできていないというズレ、逆に自分として問題があるなど感じたことが、実際はそうでもないというズレ…。このズレを修正できないとA級としてコートに立つことはできないのであろうと強く感じた。今回、ご指導頂いたことを継続して意識し、次の講習会(道民大会)までにはA級と同じ感覚でゲームを吹いたり見たりできるようにしたい。

- 最終的なところで足を運びきっていないところが多々あり藤垣氏に一日言われたことの改善も出来ず同じことを繰り返してしまいました。自分の気持ちの弱さを痛感しました。二日間藤垣氏に見ていただきお話をいただき、勉強になることばかりでした。次こそは、コートの中で発揮し、今のままでは変わらないままなので、ステップアップの為に日々努力したいと思っています。講師として来ていただいた藤垣氏、道協会指導育成の方々感謝とお礼を申し上げます。今後もよろしくお願いします。ありがとうございました。



- 藤垣氏の話で、「ゲーム終了時に、みんな Happy end になるように・・・」という言葉が印象的でした。自分もいつもそうありたいと思ってコートに立っているからです。選手やコーチがこの試合に掛けてきた時間や努力を汲んだ上で、レフェリーもそこにベストを尽くすことは当然だと思っています。ベストを尽くすために必要なこと全てにおいて、自分の未熟さを感じることができた講習会になりました。特に、突発的な出来事に対応する力が、今の自分には足りないところだと思っています。今、出来ることを一つひとつ積み重ねて、自分の目指すレフェリーに近づけるよう努力し続けていきたいと思っています。

